

パネルディスカッション

「男女がともに仕事と生活を 両立していくために」

○コーディネーター

山極 清子(やまぎわ きよこ)さん

(株)wiwiv 社長執行役員
経済管理学博士



○パネリスト



奥瀬 円(おくせ まどか)さん

社会保険労務士法人
HRM総合事務所 代表社員

中小企業診断士。特定社会保険労務士。中小企業診断士受験勉強は一人息子が1歳のときにスタート。「地域が育てた子どもたちが地元で貢献できる起業家となる」ための起業家育成を目指す。



前田 眞二(まえだ しんじ)さん

アルパイン株式会社
管理副担当理事

1982年アルプス電気(株)入社。1991年アルパイン(株)人事部へ異動。2003年より5年間、ドイツの現地法人へ出向し、帰任後は、アルパイン(株)人事総務部長を務め、現在は管理副担当理事として女性の活躍推進・雇用拡大に努めている。



千葉 悦子(ちば えつこ)さん

福島県男女共生センター 館長

平成22年3月、(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構副理事長に就任し、同年4月から福島県男女共生センター「女と男の未来館」館長。福島大学副学長。専門分野は、ジェンダー学習論、地域づくり教育論、農民家族論、生活構造論など。



清水 敏男(しみず としお)

いわき市長

いわき市議会議員2期
福島県議会議員4期
平成25年9月28日から現職

※役職名等は開催当時のものです



【自己紹介とこれまでの取組み】

奥瀬さん

私は震災後、企業に復旧補助金や従業員の賃金保障の助成金を案内し、申請手続を行ってきました。また、お客様はもちろんのこと、自事務所の従業員に対しても心理面でのフォローをしてきました。関わっている企業が震災後も事業を続けていること、自事務所の従業員が退職せずに働き続けていることが取り組みの成果です。

前田さん

現状、当社社員の男女比率は8:2ですが、女性の採用比率50%を目標に様々な対策を進めており、男性の育児休暇も徐々に増えてきました。昨年からは、社内の女性を集め「女子会」という組織を作り、現行制度の見直しをしています。今後は女性をもっと活躍できるよう、業務にかけた時間よりも成果で評価を行えるような人事制度の見直しも進めます。

千葉さん

私は、2010年に福島県男女共生センターの館長に就任しまして、これから地域に男女共同参画を根付かせようという時に東日本大震災が occurred。震災時は県内の各男女共同参画センターとの連携・協働により、女性視点での被災者支援活動が出来ました。

清水市長

私は子育て支援や男女共同参画に力を入れてきました。市長に就任して初年度に女性課長を5人登用し、次の人事で3人登用して8人に増やしました。また、支所長にも初めて女性を登用しました。市役所の女性管理職登用率は、平成22年度は2.9%でしたが、平成27年度は7.8%に上昇しました。

また、毎週水曜日に定時退庁日の実施や、職員が子育てに積極的に関わられるように、子の看護休暇を学校行事に参加できる子育て休暇に制度を改正するなど、働きやすい職場づくりに努めています。

【今後の取組み】

清水市長

市内の現状を把握するために、平成26年度には「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、今年度は「ワークライフバランスに関する企業の意識・実態調査」を実施しました。市として、女性活躍推進法に規定されている「特定事業主行動計画」を策定します。まず市役所が実践し、市内の大手企業さんへ普及啓発をしていきたいです。任期中に女性部長を誕生させたいと思います。